

あかしという宝物

たからもの

レオナルド・ロドリゲス
本当にあったお話をもとに書かれました。

「そして、……わたしは今、
自分自身で知っている。
主なる神が神のせいなるみたまによって
これらのことをわたしに明らかに
されたからである。」(アルマ5:46)

サブリーナはお母さんが近所の人と
ドアの方に歩いて行くのを見て
いました。「この本をありがとう」と、
そのお父さんが言いました。お父さん
は、手にモルモン書を持っていました。
「お母さん、なぜお母さんはみんな
に教会について話すの。」サブリーナは
後でお母さんと一緒にお皿をあら
いながら聞きました。

「それはね、教会についてのあかし
はお母さんにとって宝物だからよ」と
お母さんが言いました。「あかしがあ
るおかげで、お母さんは本当に幸せな
の。だから、他の人も幸せになれるよ
うに、それを分かち合いたいよ。」

サブリーナは、お母さんの宝石箱に

入っている、キラキラかがやくネック
レスを思いうかべました。「宝物って
どういうこと。」

「それはね、あかしはとでもかちがあ
るものということよ」とお母さんは
言いました。「何が真実か分かるよ
うに助けてくれる、天のお父様からのお
くり物なの。」

「どうやってそれをもらったの。」
サブリーナは、知りたいと思いました。

お母さんは、サブリーナにふいてもら
おうと、きれいになったお皿を手渡し
ました。「少しずつもらったのよ。お
いのりしたり、聖文を読んだりする
ときに、心の中に平安で温かい気持ち
がするわ。まるで、あかしという宝
物を増やしている感じね。」

サブリーナはゆっくりとうなずきまし
た。自分も、あかしという宝物を手

入れられるかしら、と思いました。
日曜日、サブリーナの初等協会の先
生がイエス・キリストについてお話をし
てくれました。サブリーナはよく聞きまし
た。ロベス姉妹は、イエスがすべての
おさない子供たちに自分のところに来
るようにと言われたことを話してくれま
した。イエスはみんなに祝福をおあた
えになり、お教えになりました。サブ
リーナがイエスについて考えると、心の中
に温かい気持ちを感じ始めました。

サブリーナは初等協会の後、急いでお
母さんをさがしました。「お母さん、聞
いて。あのね……」サブリーナは自分が
感じた温かい気持ちをお母さんに話
しました。

「それはすてきね」とお母さん。
「その気持ちは、せいいがわたしたち
の心にふれてくださって、福音が真実
だと教えてくださるときに感じるのよ。」

サブリーナはにっこりしてお母さんを見
上げました。「そうなの。心の中が幸
せな気持ちになったの。」せいいの声
はとても静かだったので、もし自分がけ
いけんにしていなかったら、気づかな
かったらとサブリーナは思いました。

お母さんはしっかりとサブリーナをだ
きしめてくれました。「これであなたも
自分のあかしの宝物ができたわね。」
サブリーナもお母さんをぎゅっとだきし
めました。そして自分もお母さんのよ
うに、自分の宝物をみんなと分かち合
いたいと思いました。でも、どうや
ったらそれができるのでしょうか。

その夜、サブリーナは表にイエスの絵
が書かれているパス・アロング・カード
を見つけました。そしてそれをリュック
に入れました。
次の日の休み時間、サブリーナはカー

ドのことを思い出しました。それを取
り出して、友だちのカーラをさがしに
行くと、「どうぞ、カーラ、あなたにも
らってほしいの」と言いました。

カーラはカードをしっかりと持つと、
「ありがとう。わたし、イエス様の絵が
大好きなの」と言ってくれました。

サブリーナはカーラに、カードのうらに
書かれているウェブサイトを見せると
「ここで、もっとイエス様について知る
ことができるのよ」と言いました。

「それはどの教会なの。」カーラが
聞きました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会よ」と
サブリーナが答えました。「わたしね、
教会に行ってイエス様について勉強す
ると、幸せな気持ちになるの。」

カーラはカードをポケットに入れる
と、「このカード、お母さんに見せよ

うっ」と言いました。
1週間後、授業が始まる前にカーラ
がサブリーナにかけよって来て、「ねえ、
話したいことがあるの」と、にこにこし
ながら言いました。

サブリーナは心の中で何のことかし
ら、とわくわくしました。カーラはにっ
こりして「家族でああなたの教会に行っ
たのよ。そうしたら、あなたが言った
とおり、幸せな気持ちになったわ。」

「きっとあなたもせいいいを感じる
と思ったわ」とサブリーナが言いました。

「そして、もうすぐバプテスマを受け
ると思うの」とカーラが言うのを聞いて、

サブリーナは飛び上がってカーラをだ
きしめました。これで二人は、あかしの
宝物を分かち合うことができます。■
このお話を書いた人はブラジル、アマゾン州
に住んでいます。

「福音が真実であることを自分で
学び……ましょう。今がその時、今日
がその日です。」
七十人会長
クレグ・C・クリステンセン長老
「自分自身で知っている」
「リアホナ」2014年11月号, 52



あなたが
あかしを伝えるとき、
それはどんな宝物に
なるでしょう。

イラスト/アン・ドロー・ホスリー

